

心ヲ鎮定シ疑團ヲ解釋シ、如何様ニ種痘スベキヤノ的應ノ術ヲ明カシ、且此手術ノ鴻益ヲ弘クセムガ爲ニ、吾意ヲ決シテ、此小冊ヲ刷工ニ附シテ、以テ世ニ公布ス、痘ノ紀載ヲ各條ニ派分シテ、詳ニセムコトハ吾ガ素志ニ非ズ、此略說ハ、唯日本ノ醫家ヲシテ力ヲ戮セテ、種痘ヲ勉強シ、且ツ謹慎シテ此術ヲ施サムコトヲ精思セシメンガ爲ノミ、

然レドモ此術ヲ公行シ、普ク世民ヲ濟救セムコト、豈唯醫家ノミニシテ、能ク之ヲ倣シ得ムヤ、故ニ吾此事務ヲ以テ、有司ニ託シテ、其周施ヲ希望ス、斯ク此術ヲ重ンズル、豈之ヲ無益ト謂ハムヤ、亦吾ガ婆心ノミ、冀クハ各地方ノ官員及里保郷正、深ク此意ヲ體シテ、懇ニ毎家ノ慈父ニ諭告シ、各此簡說ヲ忽諸スルコト勿ラシメヨ、

日本ノ民庶、苟モ此術ノ傳播ニ賴テ、彼ノ猟獰險惡ナル劫病ヲ脱離シ、益蕃息スルニ至ラバ、則チ吾願方ニ足リ、吾勞空シカラズト謂フベキノミ、

西曆一千八百五十七年第十二月二十日
安政四年十一月五日 出島ニ於テ識ス

王國海軍第二等醫士

笨百ボムベ
方フバン

セ轍貨爾多ノールデルフチード

〔嘉永明治年間錄九〕萬延元年七月十三日、種痘ヲ望ム者ハ、下谷種痘所ニ於テ療治ヲ受ベキノ達、下谷和泉橋通リ種痘所の儀、先達て家業の者申合せ取建候處、此度相願ひ、右種痘所に於て、同業者集會致し、牛痘の種痘致し候間、世上望の者共は勝手次第罷越し、療治受候様可致候、右之趣町中へ可觸知もの也、

〔町觸入〕申〇萬延八月廿七日町觸仕候
下谷和泉橋通種痘所之義、先達而家業之者共申合取建候處、此度相願、右種痘所において、同業之